

## 関西ペイント株式会社 様



1. 関西ペイントの全国各拠点は、それぞれ自分の拠点にファイル共有サーバを持っている。
2. これらファイル共有サーバと、ここ神奈川県平塚市にあるNet-It Centralのサーバが接続されている。
3. Net-It Centralは、各拠点のファイル共有サーバの中の、PowerPointやWordなどOffice系のファイルを、定期的に夜中に吸い上げる。吸い上げたファイルは、Net-It Centralにより、Webブラウザで表示できる形式に変換されてポータルで公開される。
4. いわば各拠点にあるOfficeファイル、つまりナレッジを、夜中に、裏口から分らないように引っ張ってきて集めている状態。こうして自動的にナレッジの集中貯蔵庫ができあがる。
5. それらのナレッジは、ポータルサイトを通じて、どこの拠点からでもWebブラウザ一つで検索して閲覧できる。

このシステムの良いところは「今ある設備がそのまま使えること」、「各拠点の独自運用の邪魔をしないこと」、「大きなファイルも高速に簡単に見られること」、「検索性に優れていること」の4点です。

### ■ Net-It Centralで構築したシステムの特長その1～「今ある設備がそのまま使えること」

— Net-It Centralで構築したナレッジセンターの特長その1、「今ある設備がそのまま使えること」とは具体的には。

Net-It Centralを採用する前、一時期、大手コンピュータメーカーの大規模ナレッジマネジメントシステムの採用を検討したことがあります。大規模でご立派なシステムでした。しかし、機能が立派な分、値段も立派。また大規模システムであるがゆえに、本格導入するとすると、データベースから、認証から、何から何まで一から用意せねばならず、導入にも運用にも手間がかりそうでした。それでいて効果のほどは未知数でした。

このようなシステムを大金はたいて導入すると、失敗したときにゴメンなさいではすみません。また導入した後もずっと、このメーカーの仕様に縛られてしまいます。だから採用は見送りしました。

一方、Net-It Centralを使ったナレッジセンター。その方式は「今ある既存のファイル共有サーバ」から、つましやかにデータを引っ張ってくるだけです。拠点が増えたりコンテンツが増えたりしてファイル共有サーバが増えた場合でも、Net-It Centralの設定を一つ増やせばいいだけ。サーバが減れば、その設定を消せばいいだけ。簡素です。

Net-It Centralを使ったシステムは、スモールスタートが可能であり、拡張性も縮小性も高かった。非常にシンプルな仕組み、いわば要素技術のようなものであり、特定のベンダに縛られることもない。そして現場で使っている既存のサーバはそのまま使える。こうした点が関西ペイントに向いていました。

塗料製造メーカー大手、関西ペイント株式会社 情報システム部 担当部長 信藤健一氏(写真左)、技術企画管理部遠藤勝也氏(写真中央)に、Net-It Centralを使って、どうナレッジ共有システムを構築したのか、セキュリティなどの課題をどう解決したかを詳しく聞いた。(写真右は、弊社 営業部宮崎 取材当時)



### ■ 関西ペイントの概要

— 関西ペイントの概要について教えてください

関西ペイントは、食品缶、自動車、船、橋梁まで、様々な製品に塗る塗料を作っています。創業は1918年、2006年の年商は2312億円です。

特に自動車の塗装に強みを持っています。自動車の塗装は、美観と耐久性の両方が求められる難しい分野です。また、1958年に建設された東京タワーは5年に一回、関西ペイントの塗料で塗り替えられています。

塗装の目的は「色をつけて美しくすること」と「熱防止、衝突ショック軽減、電波吸収など、塗装を通じて機能を強化すること」の2つ。面白いところでは、「フジツボ付着防止」という機能もあります。タンカーなどの船底にフジツボがつくと、船のスピードが保てなくなるので、フジツボ付着防止の塗装をします。5年間ドックしなくてもよい「錫フリー型自己研磨型防汚塗料」を開発しその防汚性維持能力に顧客が驚かれています。

塗料製造会社というと、塗料の入ったドラム缶を客先工場に納品して終わり、というイメージを持っている人もいますが、違います。例えば自動車の塗料の場合、車体の塗装方法の検討や、製造ラインへの落とし込みなどを、お客様の製造現場に入り込んで、共同で実施します。塗装製造という業態は、売って、塗って終わりではありません。

### ■ Net-It Centralでナレッジ共有システムを構築

— 関西ペイントでは、Net-It Centralをどう使っていますか。

関西ペイントでは、Net-It Centralを使って「関西ペイント ナレッジセンター(以下 ナレッジセンター)」を構築しました。大げさに言うならば、「社内Google」です。

前述したとおり、塗料製造という業態は、食品缶から自動車、橋梁、東京タワーまで幅広い製品に関わります。もしかすると、フジツボ付着防止のノウハウが、食品缶への塗装に役立つかも知れません。横串での技術共有、ナレッジ共有に価値があるはず。しかし、これまでは顧客ごとに組織も業務も縦割りになっていて、組織をまたいだ情報共有はできていませんでした。

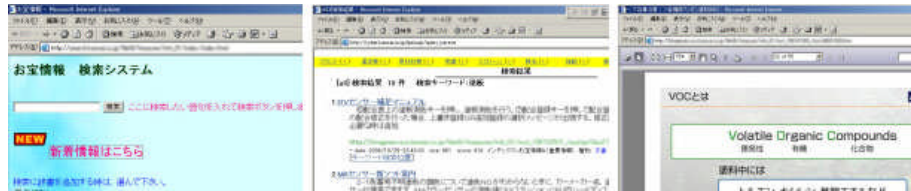
また2007年問題への対応も念頭にありました。早い段階で、組織としてナレッジを蓄積して共有できる基盤を整えておく必要がありました。

こうした課題を解決するために、2004年にNet-It Centralを導入しました。大阪、東京、名古屋、尼崎など全国6拠点にある、技術折衝情報、研究開発情報、営業情報等のファイル(Word、Excel、PowerPoint、PDF等)を、Net-It Centralでここ平塚のサーバに自動的に吸い上げて集積し、全国どこからでも検索・閲覧できるようにしました。

### ■ ナレッジ共有システムの特徴～「今あるものを有効活用

— Net-It Centralで構築したナレッジセンターのシステム内容を、詳しく教えてください。

以下のようなシステムをNet-It Centralを使って構築しました。



①何か情報が知りたい時は「お宝情報 検索システム」で検索する

②Googleのように網羅的な検索結果が出てくる

③検索結果をクリックすると、Net-It Centralにより文書が表示される。PPTの20ページ目がヒット箇所であるなら、20ページ目が直接表示される

でも、セキュリティが課題となるのは、ある意味、ナレッジセンターが現場に普及した証拠です。誰も使わないシステムであれば、セキュリティのことも誰も気にしませんから。

## ■ セキュリティの課題にどう対応したか

— ナレッジセンターによる情報共有が成功し、次にセキュリティ上の課題が出てきた…。これにどのように対処したのですか。

第一にナレッジセンターのサーバの前にリバースプロキシを設置し、外部からの侵入を防止しました。ここで人事データベースと連携したLDAP認証をかけ、アクセス制御を強化しています。

第二にNet-It Centralの機能を使って、一部のフォルダやドキュメントに対し、「印刷不可」、「ファイル保存不可」などの属性を設定しました。

これらの対処により、文書の中身を見られる。しかし、その文書を印刷したりファイル保存したりはできない。つまり、外へは一切持ち出せないというセキュリティが実現しました。

Net-It Centralは、セキュリティ機能にあらかじめ気を配ってくれていました。印刷やファイル保存だけでなく、テキストデータのコピーや、画面のキャプチャ（ハードコピー）も禁止できます。検討当初はセキュリティはそれほど重視していませんでしたが、今になってみると、助かりました。

## ■ 今後の期待

— Net-It Centralへの今後の期待をお聞かせください。

今回、実用的で拡張性の高いナレッジ共有システムが低コストで構築できました。思えばNet-It Centralのことを初めて知ったのは、高山社長が書かれた小冊子「知らない6000万円を失う『使える』企業ポータル7つの鉄則」(黄色本)を通じてでした。あの小冊子、よかったですね。製品のことはあまり触れずに、情報共有に対する基本的な考え方を説いていて、参考になりました。啓蒙活動のため、社内に配布して、みんなが読みました。

高山さんやオーシャンブリッジのみなさんには、これからも世界中から良いソフトウェアを見つけてきてほしいと思います。体気をつけてがんばってください。

— お忙しい中、有り難うございました。

## ■ Net-It Centralで構築したシステムの特長その2～「各拠点のサーバ独自運用の邪魔をしない」

— Net-It Centralで構築したナレッジセンターの特長その2、「各拠点のサーバ独自運用の邪魔をしない」とは。

塗料製造は関わる産業分野が広い。こういう組織は縦割りになりがちです。関西ペイントもそうです。事業部の独立性が強く、現場の意見が強いボトムアップ型組織です。そこに「ナレッジマネジメントで情報共有」といったカタカナのお題目を上からトップダウンで強制しても、反発されます。

例の大手メーカーの大規模ナレッジマネジメントシステムは、システム自体が上意下達型でした。そのシステムには、ナレッジを登録する窓口が一つあって、社員皆が、そこにこぞってナレッジを登録する。最も多くナレッジを投書した社員は、表彰されるというような、中央集権的なつくり…。明らかに関西ペイントの社風、土壌に合いません。

一方、Net-It Centralのしくみは、各拠点が独自に使っているファイル共有サーバの運用はそのままに、そこから知らないうちにデータを吸い上げるようなつくりでした。現場には一切負担をかけずに、全社的なナレッジの共有が実現できます。現場の反発を食らわずにスムーズに導入できました。

## ■ Net-It Centralで構築したシステムの特長その3～「大きなファイルも高速に簡単に見られること」

— Net-It Centralで構築したナレッジセンターの特長その3、「大きなファイルも高速に簡単に見られること」とは。

何十MBのファイルを苦労してダウンロードして開いてみたら、自分が求める情報はぜんぜん書いてなかった…。こんな目に2～3度遭った人は、もうナレッジセンターなど使わなくなりました。

Net-It Centralでは、ファイルを丸ごとダウンロードしなくても、簡易プレビューのようにWebブラウザ上で文書の中身をサクサク閲覧でき

る。ダウンロードの骨折りがなく、どんなファイルでもすばやく見ることができる。良いと思います。

## ■ Net-It Centralで構築したシステムの特長その4～「検索性が優れている」

— Net-It Centralで構築したナレッジセンターの特長その4、「検索性が優れていること」とは。

ナレッジセンターに巨大なPowerPointやWordのファイルが登録してあっても、それだけでは、見る人は少ない。全文検索機能は必須です。

だが、多くの全文検索システムは、ヒットしても、実際に表示されるのはヒットした文書の1ページ目です。その文書が100ページのWord文書であれば、その後、検索ワードが文書のどこにあるのか、自分で100ページをめくって探さなければならぬ。これはつらい。

Net-It Centralは、100ページの文書であっても、ページごとにファイルをバラして保管しているため、検索したキーワードが載っているページがダイレクトに表示されます。いらぬ苦労をせずに済みます。

## ■ 使えるシステムができた。その結果、セキュリティが課題になった。

— ナレッジセンターを使い始めてから、新たな課題などは出てきませんでしたか。

ナレッジセンターが社内でも普及するにつれ、セキュリティが課題となりました。

各拠点の情報が、Net-It Centralのサーバに集まる。どこの拠点からでも検索もできる。閲覧もできる。みんなが見て活用するようになる。すると「どんな情報でも皆に公開してしまうのは問題ではないか」という声が社内から上がるようになりました。

みだりに皆に見られたくない文書は確かにあります。例えば、技術部門は、研究開発段階の情報を、あまり営業に見られたくありません。営業は客先に提案するネタが欲しいので、まだ開発が途中であっても、その情報をすぐにお客に話してしまいます。その後で、開発部門が死ぬ思いをする。よくある話です。

Net-It Centralサイト <http://www.oceanbridge.jp/netit/>にて、デモサイト、試用版等を公開しています

●Net-It™はInformative Graphics Corp.の米国およびその他の国における登録商標です。 ●その他の社名または商品名等は、各社の登録商標または商標です。



つかえるITを、世界から。

## Net-It Central 国内総販売代理店 株式会社オーシャンブリッジ

〒150-0002  
東京都渋谷区渋谷1-8-3 TOC第1ビル9F  
ホームページ: <http://www.oceanbridge.jp/>  
E-mail: [netit@oceanbridge.jp](mailto:netit@oceanbridge.jp)  
TEL: 03-5464-2112(営業部)

## ●お問い合わせ先